

問題一 読み上げ文章

大昔、地球の陸地は豊かな森林に覆われていました。大昔の人は、森の中に住み、木の実を取ったり、動物を追ったりして暮らしました。動物と戦うために、木の枝を振り挙げたことでしょう。それが、道具の始まりになりました。

狩りには犬が必要です。そこで大昔の人は、犬を飼うことを覚えました。それが、家畜の始まりになりました。

大昔の人は、木や石をすり合わせて、火を作ることが覚えました。それは、素晴らしいことでした。火のおかげで、人間は寒さをしのぐことができました。火のおかげで、魚も肉も、煮たり、焼いたりすることができました。野菜も、たくさん食べることができました。火のおかげで、食料を保存することができました。

《ことばの理解と表現》

時間 90分

【問題一】

(25)

問一

これから文章を読みあげます。その文章をできるだけ正確に書き取って下さい。文章は全部で三回読みます。一回目は、何も持たずによく聴いて下さい。二回目は、ゆつくりと読みます。ここで書き取ってください。句読点も読みあげます。また、段落の前では「行を改めて下さい」と言います。2回目が始まったら、鉛筆をもって書き取って下さい。すぐに漢字を思い出せないときはひらがなで書き留めておいて下さい。三回目は、少しゆつくり読みますので、見直ししてください。三回目終了後は、再度見直しをして下さい。見直しの時間は約3分です。

問二

今あなたが書き取った文章から、どんな情景、どんな光景があなたの頭に浮かんできましたか？

あなたの頭に浮かんできたそのイメージを簡単な絵にして書いてみてください。小学生が描くスケッチ程度の絵で十分です。絵が上手であるかそうでないかは気にする必要がありません。目安時間は8分です。

【問題二】

次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

勉強するといふことがあるのだが、それが何だか、おわかりだろうか。勉強するといちばんいいことは、知識が増えること以上に、頭が良くなるということなのだ。

「a 勉強すると頭が良くなる」ということとは、1 イガイに見落とされて
いるが、「なぜ勉強をするのか」という問いへの一つの2 端的な答えである。運動すると運動神経が良くなる。運動部に入って何年かやっていると、元はそんなに動きが鋭くなかった人でも、ある程度、体が動くようになる。それと似ている。勉強すると頭が良くなる。頭が良くなると同時に心のコントロールもうまくいくようになる、というのが3 大方の筋道だ。

勉強しすぎて、ものすごくキレやすくなったという人の率よりも、ぜんぜん勉強しないでブチキレている人の率が4 圧倒的に高い。勉強する

と頭がおかしくなるかのような言説をまき散らす人がいるが、基本的にそういうことはない。

勉強というものをすることによって、ある種の自制心という、メンタルコントロール（心の制御）の⁵ギジュツも学ぶことができる。そういう心の技がセットで付いてくるわけである。これは、言ってみると人類の⁶長年の⁷チエである。

A 当たり前のことにすぎない。勉強するということの基本は、人の言うことを聴くことである。b 耳を傾けて我慢して聴くという心の構えが求められる。「おれが、おれが」という自己中心的・⁸独善的な態度を一度⁹ス¹⁰てる必要がある。「自分に理解できないことは全部価値がない」という、自分の好きか嫌いかが世界をすべて決めるといふ態度では何も学べないのだ。

先人たちの発見したことに對して耳を傾け、しっかりと聴くということが、学ぶということの基本だ。そうした学ぶ構えができてい人は、ほかの人に対しての意識を持つこともできやすい。人の言葉を聴いている間は、自己中心的な態度をやめているといふことだからだ。

本を読むということも、**B** 聴く構えを要求される。著者に対して100パーセント同意するのではないまでも、耳を傾け¹⁰虚心坦懐に、つましり心をすつきりさせて、読むわけだ。もちろん¹¹ハンパツもあるかもしれ

れないが、まずは相手の言っていることを受け入れてみようという、「積極的に受動的な構え」を、勉強・読書を通じてつくり上げる。これが**c** 学ぶ構えの基本なのだ。

学ぶ構えの基本は、受動的であることに積極的な「積極的受動性である。自己表現の意欲があるのは構わない。表現するためにいろいろなものを読んで、自分のものにしてそれで表現するのが、筋道なのだ。モーツアルトが音楽の技法・文法を¹²修得して表現したように、である。

知識や技を¹³キユウシユウするときには、人の言っていることに耳を傾けるといふ素直な態度が必要である。素直であるということが、学ぶという¹⁴カツドウそのものの持っている本質なのだ。

C ハンパツしながら、ぶつかり合いながら学ぶというやり方もないわけではない。そのテキスト（教材）と¹⁵カクトウしてこれを絶対に否定してやろうと思つてやる、ということもないわけではないが、基本的には学ぶというカツドウは「素直さ」を育てるものである。**D** 勉強すればするほど¹⁶意固地になっているとしたら、これは学び方がどこか狂っているのではないか¹⁷偏狭な考えになっていくようでは、学んでいる¹⁸甲斐がないことになってしまう。

E 勉強をすると素直にキユウシユウする構えが技となる。これがすなわち、頭自体が良くなるということだ。だから「頭がいいから勉強

強ができる」とか「頭が悪いから勉強ができない」などとよくいうが、そういう考えはあまり発展性のある考え方ではない。実際、「頭の良さ」はトレーニングによって明白に向上する。「頭」と私たちが思っているものは、もちろん情報の高速処理もあるが、おもに d 文脈をつける力 を指していることが多い。その文脈をつけて理解する力というのは、やればやるほど伸びていくものなのだ。

勉強というものはそういう意味で、まず頭を良くするし、ある程度自制心をもって心をコントロールするということに大変役立つ。もちろん、その上に知識そのものの価値ということが乗っかってくる。

(齋藤孝 『教育力』 二〇〇七年より)

問一 1～20の傍線部について、漢字にはふりがなを、カタカナには漢字を書きなさい。
(1×20＝20)

問二 傍線部 a～d について答えなさい。(3×4＝12)

- ① 傍線部 a と似ている現象は何か。本文から抜き出さない。
- ② 傍線部 b と反対の心の構えや態度はどのようなものか、本文から抜き出さない。

③ 傍線部 c の内容を、本文から抜き出さない。

④ 傍線部 d の意味としてふさわしいものをア～エから選び、符号で答えなさい。

- ア 文章を書く力
- イ 読んだり書いたりするスピードを速くする力
- ウ 考え方や物事の筋道をたどる力
- エ 深く掘り下げる力

問三 A～E にふさわしい言葉をア～オから選び、符号で答えなさい。

(3×5＝15)

- ア もちろん
- イ 考えてみれば
- ウ そういうわけで
- エ だから
- オ 同じく

問四 著者は「勉強すると頭が良くなる」と言っています。なぜ「勉強すると頭が良くなる」のか、著者の考えを二〇〇字以内で書きなさい。

(10)

【問題三】

次の①～⑩のことわざとほぼ同じ意味を持つことわざを選択肢ア～コから選び、符号で答えなさい。

(2×10＝20)

- ① 急がば回れ
- ② 猿も木から落ちる
- ③ 長いものには巻かれる
- ④ 暖簾のれんに腕押し
- ⑤ 石橋をたたいて渡る
- ⑥ 塵ちりも積もれば山となる
- ⑦ かわいい子には旅をさせよ
- ⑧ 弱り目にたたり目
- ⑨ 二兎を追う者は一兎をも得ず
- ⑩ 一石二鳥

【選択肢】

- ア 若い時の苦勞は買つてでもせよ
- イ 雨だれ石をうがつ
- ウ 一挙兩得
- エ 泣きつ面に蜂
- オ 虻蜂あぶはち取らず
- カ 弘法こうぼうも筆の誤り
- キ 急いそいては事をし損じる
- ク 糠ぬかにクギ
- テ 寄らば大樹の陰
- ト 念ねんには念ねんを入れよ